

きを異にし什器は皆相當の調和をなせるなり。今吾人は一步を進め此等數品と類似の什器を使用する民族を求むるに甚だ容易にしかも全然同一のものを見ず、即ちマレー群島之れなり。同島に於ては以上數品の外彼の貝抄子の如きも全く同一なり、其他尙下帯の如きも同じく、婦人の齒を染むる如きも相似たるあり。是に於て吾人はマレーと日本との關係を疑はざるを得ざるなり。況んや彼我の間には氣候風あり暖流ありて海の交通自から開かるべき氣運を有するに於てをや。

吾人は地理上に於て將た風俗の上に於て又事實に於て我か日本民族は少くも三種の分子を含むを見る曰くアイヌ等を中心とせる固有民族曰く朝鮮民族曰く馬來民族之なり、されど茲に注意すべきは敢て日本民族は他より移れりと云ふにあらざる

事なり、即ち日本民族は日本に發達したるものにして決して他より來りしにあらざるなり。此等の諸民族が日本島なる一つの増城の中に入れられて親密に相混和し以て今日に至りたるものなり。終りに望み一言すべきは維新以來歐米の風習勢を極めて流入し一家に於ても個人に於ても其の影響を蒙る頗る大なり、從つて庖厨の有様亦漸次移り行きて遂に其の古風を探知するを得ざるに至らんとす、今日の機變に逸すべからざるなり、願くは諸姉仔細に之か探檢をせられんことを。

清少納言

ふじのや

今宵の寒さをいかにかくらせ給ふらんなど、わさときよけに、かさいてたる文を、わななき寒か

れる下司をのこにもたせて、むかひにおこしたる
いなまんもほいなくてゆきぬ。かとひき入るゝ音
すれは、わかき女たち、さなゝりゝなどのゝし
りいて來、いかなることそあさましうもにきはへ
るよと、格子引きあけて、今宵はとていれは、よ
くもこそ渡り給ひつれ、必らずおはすへきとまぢ
もうけたるに、渡り給はぬは、よからぬ事よと一
人のいへは、ふくためたるな舞かへし給はゝいと
わひしくすさまじからんものをなと、けしきはみ
のゝしりて、母屋にあないしぬ。かるたとるなり
けり。あるしの女やかてはこやうのものとうてき
て打ちらせは、また見しらぬはおほつかなしやと
て、我衣手は露にぬれつるなとよみひかめたりと
もしらぬけなり。わらはゝえとらぬはとて、よみ
いてたるに、かなたかひして、人々にわらはるれ

は、弘法にもとてあからめせず、あなかまゝゝ、
聞はぬものをとららみつゝ、あらよくてよとて、
やかてそこらのかりいたまきちらしたるに、かな
たにては、きゝひかめて、とりあらそひつゝ、袴へ
かきいるれば、をのこともをかしかりて、さしい
るゝに、なほやらしとする、かくて度かさなれば
男も女も四人なればとて、二つに分れぬ、一度な
らす二度さへまけぬるを、男とても女とても、か
はらぬものを、今一度せんにはといふ。さらは、
こたひまけたるかたは、いつれにても舞ひいてん
といふに、心得て引き争ふ、女ともやかて衣ぬき
てたつものか、あさましくて、みそかにたちいて
んとするに、そのまゝおひ來りて、ひきすえぬ。
はや何時にや、いみしうさむき事よなと、さすか
に人々も心つきて、外の方をみやれば、しらめる

さまなり、一人の女たちで、板戸ひきあくれば、
 よひのほとよりさえ渡りしもうべ、雪しろらふり
 積れるなりけり。其女、此内にきささの宮はおは
 さぬかなとかしこしとも思はぬげに言ひ出てぬ。
 やかてこうろ峯のとまはに打いてたる、いみしく
 て、あはれかくまで今の世の女たちの心になひ
 てもてはやさるゝを、かのおもとかたましひ、若
 しきいたらんには、いかばかりなげくらん、いか
 はかりうらむらん、けにおもとは、おもなく文字
 たによめぬ女にはあらさりけるものとかたはら
 いたくて

母と幼な子

つねを

すひつもいつか

灰がちに

さむざかこてる

幼な子の

「春着ぬふて」と 何にげなく

優しき言ばに 胸さわぎ

「父がいまさば しまさば」と

諭せる母を ながめては

「ちんはいづこに ぬ給ふ」と

問ふ子のかしら 掻い撫で、

「さればよ汝が 父うへは

かへらぬ旅に 三とせまへ

とのみにまたも うなだれて

あはれ涙に 母と幼な子

幼稚園案内 (第三卷第十一號の續)

東 基 吉

保育の方便の續き

保育の方便は、遊戯、唱歌、談話、手技の四項目